

データでみる大正大学

2005

平成17年4月1日▶平成18年3月31日



大正大学

# 資金収支計算書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

## 収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,248,522	4,249,591	△1,069
手数料収入	163,805	157,126	6,678
寄付金収入	261,880	264,993	△3,113
補助金収入	282,364	314,065	△31,701
資産運用収入	13,400	7,625	5,774
事業収入	7,000	10,883	△3,883
雑収入	90,900	86,589	4,310
前受金収入	901,200	1,055,522	△154,322
その他の収入	662,224	2,250,262	△1,588,038
資金収入調整勘定	△1,151,909	△1,158,603	6,694
前年度繰越支払資金	3,750,168	3,750,168	—
収入の部合計	9,229,554	10,988,224	△1,758,670

## 支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,566,326	2,454,736	111,589
教育研究経費支出	1,171,825	1,064,057	107,767
管理経費支出	503,862	448,249	55,612
借入金等利息支出	7,980	7,970	9
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	30,939	20,939	10,000
設備関係支出	147,468	152,920	△5,452
資産運用支出	949,200	2,569,937	△1,620,737
その他の支出	542,518	549,938	△7,420
[予備費]	60,000	—	60,000
資金支出調整勘定	△212,868	△201,072	△11,795
次年度繰越支払資金	3,362,303	3,820,547	△458,244
支出の部合計	9,229,554	10,988,224	△1,758,670

資金収支計算書は、本学の当該会計年度の諸活動に対応する、全ての収入・支出の内容を明らかにし、且つ支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

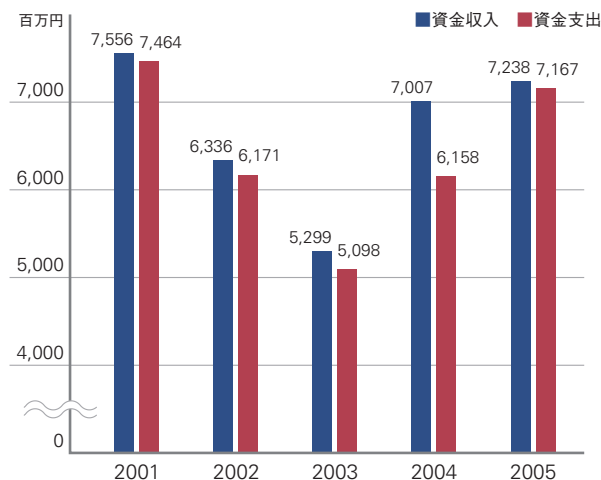
資金収入と資金支出の差額である次年度繰越支払資金は、38億2千万円余となり予算を4億5千万円余上回りました。

これは主として、収入面では、国庫補助金及び前受金が見込みを上回り、支出面で主要項目である人件費、教育研究経費、管理経費がいずれも予算を下回ったことによるものです。

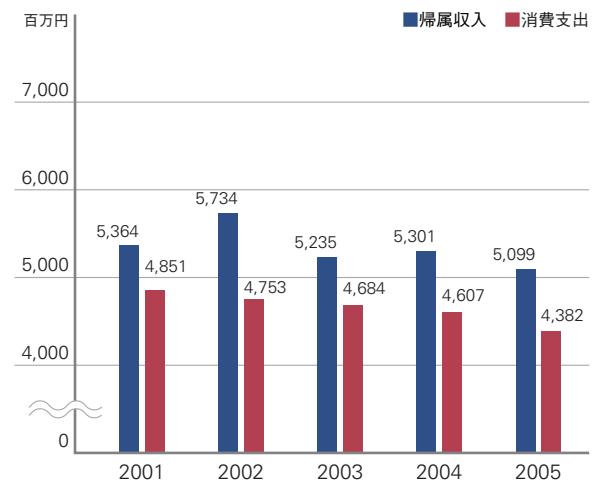
施設及び設備関係支出1億7千万円余は、主に3号館（教室棟）エレベーター設置工事費及び10号館の全教室AVシステム設置工事及び図書等の購入にかかわるものです。

資産運用支出における積上げの主なものとして、大学整備費引当特定資産（社債）へ4億円、退職給与引当特定資産（社債）へ1億円、同じく定期預金から特定資産（社債）へシフト1億円となっています。

## 資金収支の推移



## 消費収支の推移



(注) 資金収支の推移の「資金収入」は資金収支計算書の「収入の部合計」から「前年度繰越支払資金」を控除した金額であり、「資金支出」は「支出の部合計」から「次年度繰越支払資金」を控除した金額です。

# 消費収支計算書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

## 消費収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	4,248,522	4,249,591	△1,069
手数料	163,805	157,126	6,678
寄付金	261,880	273,953	△12,073
補助金	282,364	314,065	△31,701
資産運用収入	13,400	7,625	5,774
事業収入	7,000	10,883	△3,883
雑収入	90,900	86,589	4,310
帰属収入合計	5,067,871	5,099,835	△31,964
基本金組入額合計	△608,000	△547,483	△60,516
消費収入の部合計	4,459,871	4,552,352	△92,480

## 消費支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	2,541,676	2,423,179	118,496
教育研究経費	1,582,825	1,456,134	126,690
管理経費	531,862	492,564	39,297
借入金等利息	7,980	7,970	9
資産処分差額	3,000	2,981	18
[予備費]	60,000	—	60,000
消費支出の部合計	4,727,344	4,382,830	344,513
当年度消費支出超過額	267,473	—	—
当年度消費収入超過額	—	169,521	—
前年度繰越消費支出超過額	1,401,508	1,401,508	—
翌年度繰越消費支出超過額	1,668,981	1,231,987	—

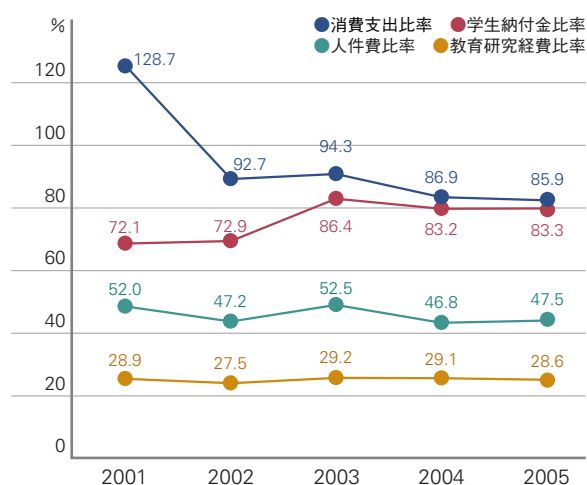
消費収支計算書は、計算目的に違いはありますが、いわば企業会計の損益計算書にあたるもので、本学の経営状態が健全であるかどうかを示すものです。

帰属収入は、借入金収入や前受金収入と違って、本学に帰属する負債とならない収入で、予算と比べ3千万円余上回りました。

消費支出は、借入金等返済支出や施設関係支出といった資産支出と違って教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、予算と比べ3億4千万円余下回りました。この結果、帰属収支差額は、7億1千万円余を計上することが出来ました。(帰属収支差額比率14.1%)

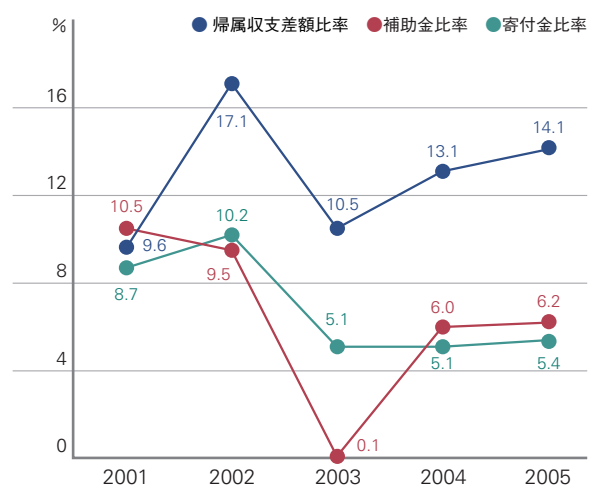
また、当期の消費収支差額は1億6千万円余の収入超過となり、翌年度繰越消費支出超過額が減少しました。

## 消費収支関係財務比率の推移 ①



消費支出比率=消費支出/帰属収入  
 学生納付金比率=学生納付金/帰属収入  
 人件費比率=人件費/帰属収入  
 教育研究経費比率=教育研究経費/帰属収入

## 消費収支関係財務比率の推移 ②



帰属収支差額比率=(帰属収入-消費支出)/帰属収入  
 補助金比率=補助金/帰属収入  
 寄付金比率=寄付金/帰属収入

# 貸借対照表

平成18年3月31日現在

## 資産の部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	15,772,154	15,516,324	255,829
有形固定資産	12,221,122	12,486,353	△265,231
その他の固定資産	3,551,032	3,029,971	521,061
流動資産	3,944,345	3,915,561	28,784
合 計	19,716,500	19,431,886	284,614

## 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部	2,893,307	3,325,697	△432,390
固定負債	1,480,675	1,612,231	△131,556
流動負債	1,412,632	1,713,465	△300,833
基本金の部	18,055,180	17,507,696	547,483
消費収支差額の部	△1,231,987	△1,401,508	169,521
合 計	19,716,500	19,431,886	284,614

## (注1)

(単位：千円)

減価償却額の累計額の合計	5,246,787	4,843,313	403,473
--------------	-----------	-----------	---------

## (注2)

(単位：千円)

基本金未組入額	356,573	759,113	△402,540
---------	---------	---------	----------

※ 基本金未組入額は翌年度以降基本金への組入れを行うこととなる金額です。

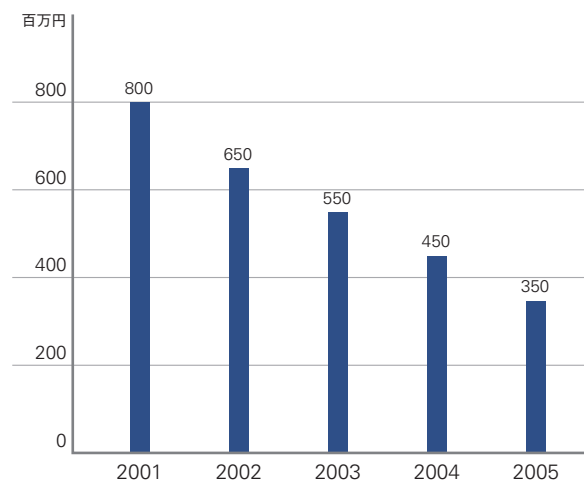
有形固定資産は、図書購入を約1億9百万円行いましたが、施設への投資が3号館のエレベーター設置工事約1千8百万円、機器備品関係で10号館のAVシステム設置工事が約3千9百万円のみであったため、減価償却を主に2億6千万円余の減少となりました。

その他の固定資産は、引当特定資産への積上げ5億円を行ったこともあり5億2千万円余の増加となりました。

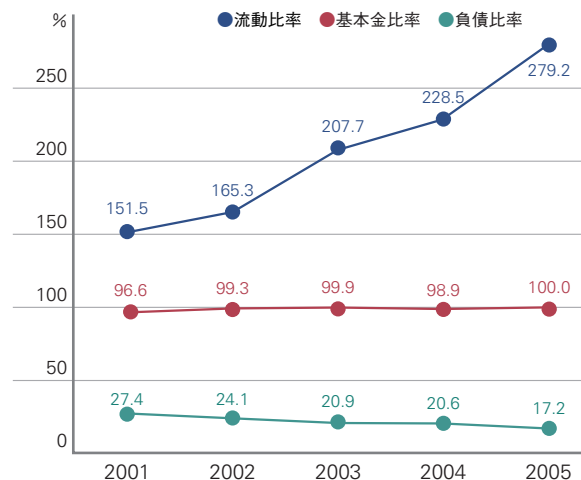
流動資産は、繰越現預金を主に2千8百万円余の増加となりました。

一方、負債の部で、借入金が増加したこと等もあり、正味資産は7億1千万円余の増加となりました。

## 借入金残高の推移

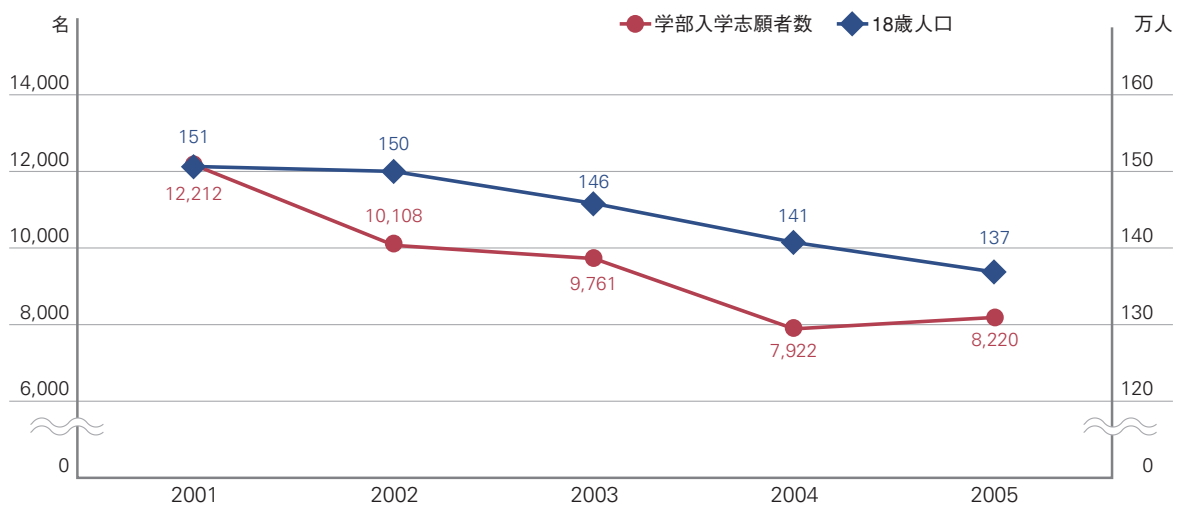


## 貸借対照表関係財務比率の推移

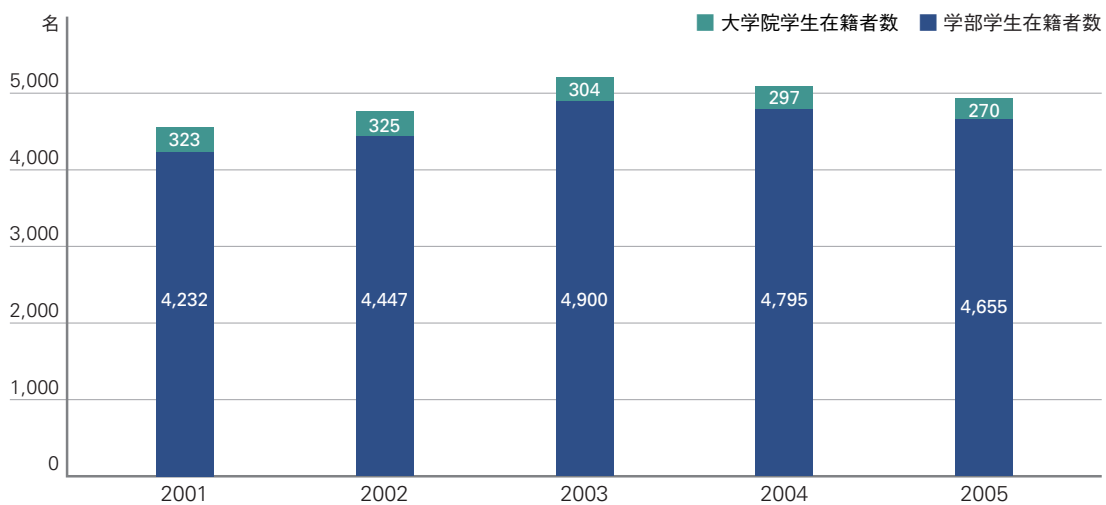


流動比率 = 流動資産 / 流動負債  
 基本金比率 = 基本金 / 基本金要組入額  
 負債比率 = 総負債 / 自己資金

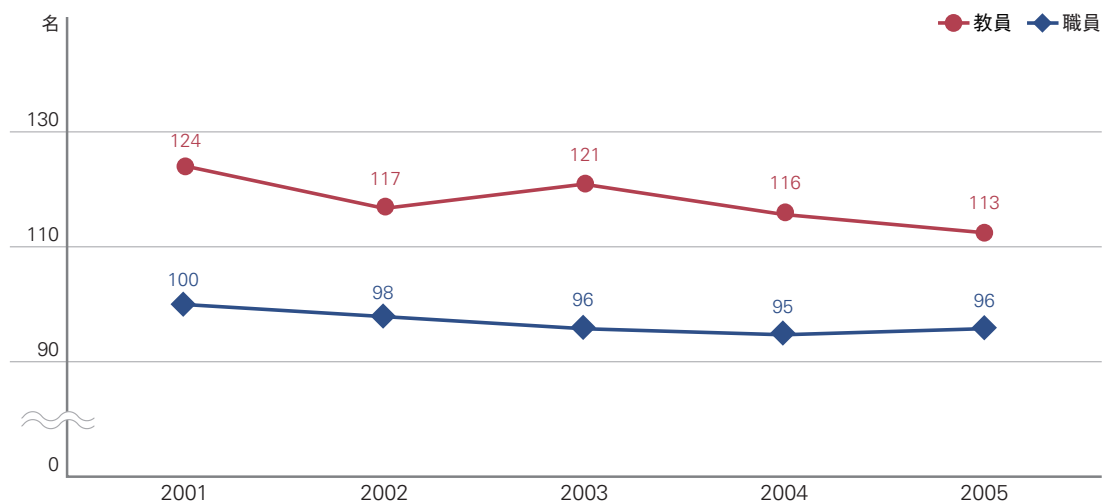
## 学部入学志願者数・受験人口の推移



## 学生在籍者数の推移



## 教職員数の推移



## ごあいさつ



理事長  
里見 達人

大正大学は、第一次世界大戦、さらに未曾有の災害・関東大震災のあとの混沌とした世情のなかで、仏教復興を思う先人の叡智と努力によって設立されました。

とき、大正15年（1926）4月、新大学令の制定にあわせ、総合仏教大学を目指し、澤柳政太郎氏を初代学長として開学いたしました。

その後、激動の近代史の流れのなかで、本学も幾多の浮沈を経験しましたが、設立仏教教団と全学一丸の和の上で今日の発展をみております。

しかし、21世紀、世の中は大変な勢いで動いております。

とくに私学には経営という重大な問題がのしかかってまいります。

もし、これにつまずけば建学の精神も教学も全て危うくなってまいります。

いつのときも、変化を嫌う組織は衰えます。

いままでは研究センターの大学が尊敬されてまいりましたが、これからは、それに加えて社会への貢献、つまり公益性を問われ、若者の育成・指導・教育が大切となり、大学の独自の強みを生かす戦力と、マネージメント・システムの確立に留意しなければなりません。

平成17年度事業では、教学面で自己点検・評価を進めるとともに、教育・研究の特色化及び個性化に取り組み、さらには教育・研究活動等の積極的情報開示、魅力ある教育内容への改善のための組織的な取り組みを行い、経営管理面で財務内容の段階的改善に取り組みつつ、教育・研究環境の整備及び教育・研究設備のより一層の充実を図ってまいりました。

本学も他大学と同様に大きな転換期に直面しておりますが、今後も仏教系大学としてのオリジナリティを強みとし、将来社会に大きな役割を果たしたいと念じています。

## 役員状況

### 理事

理事長：里見達人

学長：星野英紀

常任理事：小野塚幾澄、石上善應、杉谷義純、船岡芳昭

理事：岡本宣文、榎本昇道、菅野秀浩、廣橋義敬、宇高良哲

監事：山田俊和、鈴木道雄、鈴木中也、安孫子虔悦

評議員：29名（うち6名理事兼務）

顧問：4名



新マークは大正大学の英文イニシャル「T」をベースに、向上心、人間性、宇宙観を表現した構成になっています。上方に広がり伸びるラインは、常に向上心を持ち続けるのびやかな学生のあるべき姿を表現し、ラインとリングが重なるところは個性と連帯感の共存を意味し、その中に広がる無限の創造性を表現しています。また、同時に人と自然の調和というものを2つの輪と1本の道によって表わし、本学の伝統と未来を強調しています。カラーのグリーンは地球と自然、レッドは太陽と人の心、ブルーは未来と知性をイメージさせています。

学校法人 大正大学 総務部

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3037 E-Mail [info@mail.tais.ac.jp](mailto:info@mail.tais.ac.jp)